

平成 30 年度 第 1 回みんなで支える森林づくり諏訪地域会議

- 開催日時** 平成 30 年 8 月 29 日 (水) 13:30~16:40
開催場所 現地 (諏訪市、下諏訪町) 及び諏訪合同庁舎 502 号会議室
出席委員 藤森良隆委員 (座長・北真志野生産森林組合長)、中村くすみ委員 (カクダイ製材所有限会社)、牛山輝明委員 (原村役場農林課長)、宮坂佐知子委員 (長野県建築士会諏訪支部副部長)、片倉正行委員 (座長代理・元林業総合センター所長)
事務局 酒井地域振興局長、石澤林務課長、田中企画幹兼林務係長、平林課長補佐兼普及林産係長、平澤専門員、松橋主査

現地調査

- (1) みんなで支える里山整備実施状況と防災・減災のための里山整備計画 (諏訪市大和地区)

使用資料

- ・「諏訪市大和地区における森林税を活用した里山整備実績と今後の計画」



諏訪市大和地区

- (2) 森林づくり推進支援金活用事例 (下諏訪町あすなろ公園)

使用資料

- ・「下諏訪町における森林づくり推進支援金の活用事例」



下諏訪町あすなろ公園

会 議

- (1) 座長選出

- ・互選により藤森良隆委員が座長に選出された。
- ・座長指名により片倉正行が座長代理に選出された。

- (2) 長野県森林づくり県民税（森林税）の概要について
使用資料
 - ・「長野県森林づくり県民税（森林税の）あらまし」
 - ・「平成 29 年度みんなで支える森林づくりレポート」
- (3) 平成 30 年度諏訪地域の森林税活用事業計画等について
使用資料
 - ・「平成 30 年度森林づくり県民税について～事業の内容及び目標～」
 - ・「諏訪地域振興局平成 30 年度森林税活用事業計画」
 - ・「平成 30 年度観光地等魅力向上森林景観整備事業の概要」
 - ・「平成 30 年度森林づくり推進支援金について」
- (4) 意見交換

<質疑応答要旨>

○座長

第 2 期から委員を務めておられる片倉委員から見て、感想はいかがか。



藤森良隆 委員（座長）

○片倉委員

諏訪地域会議の委員として、森林税の制度等を県民に分り易く説明されたい旨、意見を出させていただいた経緯がある。今回の会議で示された資料は、かなり分り易くなったと評価できる。



片倉正行 委員（座長代理）

○座長

木材の「地域密着」・「地消地産」の観点から御意見を伺いたい。

○宮坂委員

設計をしている立場からの意見を申し上げる。

諏訪地域では、大手のハウスメーカーの住宅が多かったが、最近では在来工法による地元の工務店もかなり頑張っている。その理由として、施主が大手メーカーのモデルハウスを見て発注を決めるケースが多かったと思うが、最近では、テレビ番組のビフォーアフターなどの影響もあって、若いユーザーなどが、ものづくりとしての在来工法に関心を持ってくれるようになったことが大きいと考えられる。



宮坂 佐知子 委員

○座長

大手ハウスメーカーと在来工法を比べるとコストの面はいかがか。

○宮坂委員

ハウスメーカーは、ローコスト住宅から高級住宅まで、様々あるので一概には言えない。

ただし、ハウスメーカーでは、営業に力をいれているため、その経費のウェイトが大きくなってしまふ。このため、営業経費のウェイトが小さい地元工務店の方が、材料にお金を掛けることが出来ると言えるのではないか。

○中村委員

製材をしている立場から意見を申し述べる。

ハウスメーカーがPR等に掛ける予算の一部を材料に回せば、相当に良い材料を使うことができるのではないか。



中村 くすみ 委員

○座長

行政の立場で地消地産を進める施策についてお伺いしたい。

○牛山委員

県は、県産材を使った住宅新築等に補助をしている。

原村では、平成26年度に村産材を使った住宅に対する補助制度をスタートさせたが、

実績は1件のみであったため制度を終了させた。実績が伸びなかった理由は、村産材を製材するところが無かったためである。



牛山 輝明 委員

○中村委員

樹木を伐採し、材として住宅に利用するには、ひと手間余計にかかる。

時間とお金に余裕が無いと、なかなかできない。過去に、自分の山から出した材を使ってご自宅を建築された方がいたが、完成した家はすばらしいものだった。

また、県産材を使った住宅助成金制度は、県産材として指定されている材が高価であるため、利用しづらい面がある。

○座長

信州プレミアムカラマツの動向はいかがか。

○中村委員

構造材としては、樹齢80年であり戦前に植樹されたものになる。また、枝払いなど手入れされていないと製品とにならない。

○事務局

現行では、国有林の材が中心となっている。将来的には諏訪管内からも産出されるかもしれない。

○座長

里山間伐に関して、諏訪地域への浸透率をどのように感じているか。

○事務局

県内他の地域と比べて、諏訪地域が遅れてといるようには感じていない。

これからは搬出間伐に関して、県としても支援に力を入れなければならないと考えている。

○片倉委員

地元の山を見て感じることは、作業道がないということである。諏訪が著しく遅れているわけではないが、地域の特性として山が急であり狭いため、作業道が作りづらくなっている。

なお、諏訪地域は、松くい虫が入っていない県内唯一の地域である。マツタケ資源を是非とも守らなければならない。

○事務局

「諏訪地方松くい虫予防対策協議会幹事会」においても、切迫した状況として認識し、対応している。対策としては、不自然に枯れた松を早期に発見し、検体検査を行い、陽性となった場合に伐倒燻蒸処理を行うことである。また、陽性反応が出た場合は、地域住民に注意

喚起の広報を行い、枯れた松の通報をしてもらうこととしている。

なお、今年は市町村職員やマツタケ生産者等を対象とした研修会やドローンを活用した調査を試行することとしている。

○事務局

他部局所管の事業も含めた今年度事業の実施状況等について次回の会議でご検討いただきたく、今年度はもう一回の会議開催をお願いしたい。

開催日時等については、事前に委員各位と調整の上決定させていただく。

(16時40分終了)